

## 第十四回国際シンポジウム

### 中国語教育と北京語研究

主催 大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻

共催 大東文化大学外国語学部中国語学科

開催日 2017年9月30日(土) 10:20~17:10

場所 大東文化大学板橋キャンパス1号館 10102 教室

2011年(平成23)4月、建学の精神「東西文化の融合」に基づき、世界の文化の進展と人類の幸福の実現に寄与できる有為な人材の育成を目的とし、中国語学・中国語教育学・中国語文化学を必要とする国内外のニーズに応え、高度の中国言語文化研究能力とあわせて高度の中国語運用能力のある大学院学生を養成するため、大東文化大学大学院外国語学研究科中国言語文化学専攻博士課程が開設されました。

「言語が文化を創り、言葉が世界を結ぶ、世界を考える中国言語文化学の構築」をスローガンとし、東西文化の融合と世界を考える中国言語文化学分野における研究と教育の質的向上を目指し、第十四回国際シンポジウムを開催いたします。

プログラム 総合司会 竹島 毅(大東文化大学)

◇10:10~10:20 受付

◇10:20 開会の辞 丁 鋒(中国言語文化学専攻主任)  
研究発表

◇10:25~11:00 蘇 秋韻(大東文化大学博士課程後期課程院生)  
「方向補語“過”と経路のイメージについて」

◇11:00~11:35 尹 俊(大東文化大学博士課程後期課程院生)

「『北京官話伊蘇普喩言』における  
用字法と作品成立の関係について」

◇11:35~12:10 孫 雲偉(大東文化大学博士課程後期課程院生)

「吳泰壽訳『官話指南総訳』における注釈について」  
以上司会 大島 吉郎(大東文化大学)

◇12:10~13:00 休憩(昼食)

挨拶  
講演

◇13:00~13:10 大月 実(大学院外国語学研究科委員長)

◇13:10~14:40 張 美蘭(招聘講演者、清華大学教授)

#### 「日本明治時期北京話教科書與語言研究」

(「『語言自邇集』(1867)の学習・模倣から北京語教材の新編・独創まで」を巡り、広部精『亜細亜言語集(支那官話部)』(1879)、宮島九成『參訂漢語問答篇国字解』(1880)などが《清文指要》との接点、又は吳啓太、鄭永邦『官話指南』(1881)の多言語伝播を通して、清末民初の北京語、南北官話の異同及び言語接触による変遷を論じ、講演者の独自研究成果が満載する。)

司会 山内 智恵美(大東文化大学)

◇14:40~14:50 休憩

発表

◇14:50~15:35 羅 小東(北京外国語大学教授、大東文化大学特任教授)

「『莊子』的隱喩解讀」

◇15:35~16:20 丁 鋒(大東文化大学教授)

「山梨稲川の中国語上古音研究」

◇16:20~17:05 大島吉郎(大東文化大学教授)

「循環する物語——“彷彿思想里有鬼似的”に関する一考察」

以上司会 岡部 謙治(大東文化大学)

◇17:05 閉会の辞 山口 直人(中国語学科主任)